

平成23年度 いいたてデイサービスセンター 通所介護事業報告書
《一般型デイサービス事業》

1. 基本方針について

原発事故に伴い、事業運営は5月末までの約2ヶ月間と云う短い期間だったため、長期に掲げた目標等については殆どがクリアすることはできませんでした。

然しながら、開所していた短い期間でも、従来と変わらないサービス提供に出来るべく、ご利用者が可能な限り、居宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るよう、必要な日常生活上（入浴・排泄・食事等）の援助等を提供してきました。

- ① 入浴については、入浴形態とその日の体調に留意し、また、個々の自立度を鑑みながらその方にあった声掛けや見守り等に心掛け、安全且つ快適に入浴をして頂けるよう努めてきました。
- ② 排泄支援においては、支援を要する人でも、なるべく有する能力を活用して頂くために、できないところの支援・声掛け等を行ってきました。また、自力でできる方に対しての安全で安楽な方法も提供。
- ③ 食事については、厨房と連携を密にし、目でも・味でも・美味しく・楽しめるよう努力してきましたが、原発事故の影響により、満足のいく食事提供内容ではなかったように思います。

2. 具体的な施策について

(1) 重点強化項目

- ① 個々にあった援助プランの提供については、ケアプランに基づき、一人ひとりのニーズに合った援助計画を作成し、継続していくことは困難な状況でした。
- ② 資質の向上のため各種研修会に参加することについては、6月から休業の状態になっていることから目標は達成しませんでした。
- ③ 自立した日常生活を送れるよう支援することについては、食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴などの基本的行動の回復、維持向上に努めてきました。また、心身の健康や身体機能の維持及びレベルアップを目指し、体操や日常生活動作訓練等、ご利用者のレベルに合ったレクリエーションを実施してきました。

しかし、ご利用者と相談のうえ目標を定め、プログラムを作成し、3ヶ月毎に評価し、また、プランを計画すると云ったことができませんでした。

- ④ 生活の質の向上を目指し口腔ケアの充実を図るため、うがい、舌の運動、発声練習、嚥下体操等のプログラム作成を行ってきたが、上記③の理由と同様に、1年間を通し実施することはできませんでした。

(2) 利用対象者

要介護状態にある高齢者等

(3) 事業内容

① 送迎サービスの提供

介護職員が添乗し、見守りや声掛けを積極的に行うことで、より安全に安心して

ご利用頂けたと思います。

② 日常生活上の支援

- 食事： ご利用者の嗜好や状態に合わせ、満足頂けるまでの提供には至らなかったものの、出来る限りのことは努力してきました。（栄養士と連絡を密にして食事の提供）
- 入浴： その日の健康状態を確認し、安全で快適な入浴を楽しめるよう、また、身体の清潔が保てるよう支援してきました。（入浴中でも楽しめる適度な体操や見逃している部分の清拭の徹底）
- 排泄： 一人ひとりの状態に合わせ、安心して排泄できるよう支援してきました。（見守りを徹底し、出来る行為は自分でして頂き、出来ない行為に対して援助）

③ 交流支援

ご利用者同士の交流は、リフレッシュ効果に繋がり、短い利用期間中でも生き生きとした笑顔がみれた。反面、日々過ぎる度、避難のためご利用者が減ってきたことによる寂しさもありました。

④ アクティビティ（集団レクリエーション）の実施

楽しみながら行えるレクリエーションは実施できたものの、創作活動については時間と回数を要するため、途中で終わることになってしまいました。

⑤ 機能訓練の実施

個々の状態に合わせた適切な機能訓練を行い身体機能の維持向上を図ってきました。また、1年間のスパンで何処まで出来るかを見届けることができなく残念に思います。

⑥ 生活相談

日常生活における悩み事等の相談を行い、生活の向上に繋げてきました。やはりというべきか、原発事故関連の悩みが殆どでした。（今後の避難生活の問題、放射線量の問題等）

（4）運営日及び時間

毎週月曜日・水曜日・木曜日 9：00～15：30

（5）年間行事

① 誕生会・・・毎月実施（簡素ではあったが行って来ました）

② レク大会・・・年3回実施することはできませんでした。

③ 地域ふれあい交流

ア. 外出する機会が少ないご利用者に、帰りの送迎を利用し、住み慣れた地域の名所を散策（ルートの配慮、季節を感じる、地域交流）することについては、放射線量の問題から実施することはできませんでした。

イ. 村内保育園児との交流により、生活の活性化を図ることについても計画的避難区域では実施することはできませんでした。

④ 行事食・・・季節感を盛り込み楽しく味わって頂くことについては、原発事故に伴い様々な問題等があり実施することはできませんでした。

⑤ 喫茶・・・毎月第2週目の1週間実施する予定だったが実施することはできませんで

した。

以下の年間行事は実施できず。

月	内 容	月	内 容
4月	地域散策	10月	芋煮会、紅葉見学（送迎時に見学）
5月	花見(送迎時に名所めぐり)、レク大会	11月	地域散策、レク大会
6月	地域散策	12月	クリスマス会、忘年会
7月		1月	書初め
8月	レク大会	2月	節分
9月		3月	ひな祭り

(6) 職員の配置

この事業を行うため次の職員を置くものとする。

施設長、生活相談員、看護師・機能訓練指導員、介護員、運転手

(7) 利用定員

1日20人以内

3. 利用状況

	4月	5月
稼働日数	12日	13日
延べ利用人員	100人	92人
1日平均利用者数	8.3人	7.1人

※ 原発事故により、多大な影響を受け事業を休業せざるを得ない状況となり、今後、ご利用者が継続したサービスを受けられるのか、行き先は何処になるのか等、とても心配になり悲しい現実にも愕然としました。また、職員にとっても、今までチームで頑張ってきたものがバラバラとなりとても残念な思いです。

平成23年度 いいたてデイサービスセンター 介護予防通所介護事業報告書
《介護予防デイサービス事業》

1. 基本方針

原発事故に伴い、一般型同様に事業運営は5月末までの約2ヶ月間と云う短い期間だったため、長期に掲げた目標等については殆どがクリアすることはできませんでした。

然しながら、短い期間中でも、その有する能力に依りて自立した日常生活を営むことができるよう支援するとともに、一人ひとりの心身の状況および環境等を踏まえ、介護予防を目的としたアクティビティーおよび運動機能向上サービスを提供してきました。

2. 具体的な施策

(1) 重点強化項目

- ① 原発事故に係る諸事情等により、ケアプランに沿った援助計画を作成するのは困難であったものの、積極的に従来通りの高いサービスを提供してきました。
- ② 資質の向上のため各種研修会に参加することについては、6月から休業の状態になっていることから目標は達成しませんでした。
- ③ 心身機能の維持・向上を図り、自立した日常生活を送れるよう、積極的にアクティビティー及び運動機能向上サービスの提供をしてきました。
- ④ 生活の質の向上を目指し口腔ケアの充実を図るため、短い期間ながらも、うがい、舌の運動、発声練習、嚥下体操等のプログラム作成を行ってきました。

(2) 利用対象者

要支援1，2にある高齢者

(3) 事業内容

① 送迎サービスの提供

介護職員が添乗することにより、より安全に安心して利用頂けるよう努めてきました。

② 日常生活上の支援（食事、入浴、排泄の基本サービスの提供）

- ・ 食事： 満足頂けるまでの提供には至らなかったものの、出来る限りのことは努力してきました。（栄養士と連絡を密にして食事の提供）
- ・ 入浴： その日の健康状態を確認し、安全で快適な入浴を楽しめるよう、また、身体の清潔が保てるよう支援してきました。（入浴中でも楽しめる適度な体操や見逃している部分の清拭の徹底）
- ・ 排泄： 一人ひとりの状態に合わせ、安心して排泄できるよう支援してきました。（見守りを徹底し、出来る行為は自分でして頂き、出来ない行為に対して援助）

③ 交流支援

短い利用時間中でも、ご利用者同士の交流は、リフレッシュ効果に繋がり、生き活きとした笑顔がみれました。反面、日々過ぎる度、避難のためご利用者が減ってきたことによる寂しさもありました。

④ アクティビティーサービスの実施（14：00～15：00）

楽しみながら行えるレクリエーション等は実施できたものの、創作活動については、一般型と同様に途中で終わってしまいました。

⑤ 運動機能向上サービスの実施（14：00～15：00）

個々の状態に合わせた適切な機能訓練を行い身体機能の維持、向上を図ってきたものの、1年間の結果を見届けることができなく残念に思います。

⑥ 生活相談

日常生活における悩み事等の相談を行い、生活の向上に繋げてきました。相談の内容は原発事故関連が殆どでした。(今後の避難生活の問題等)

(4) 運営日及び時間

毎週火曜日・金曜日 9:00~15:30

(5) 年間行事

- ① 誕生会・・・毎月実施(簡素ではあったが行ってきました)
- ② 体力測定・・・3ヶ月毎に実施することはできませんでした。
- ③ ふれあい交流
 - ア. 外出する機会が少ないご利用者に、帰りの送迎を利用し、住み慣れた地域の名所を散策(ルートの配慮、季節を感じる、地域交流)することについては、放射線量の問題から実施することはできませんでした。
 - イ. 村内保育園児との交流により、生活の活性化を図ることについても計画的避難区域では実施することはできませんでした。
 - ウ. 買い物に出かけることが少ないご利用者に実際に買い物を体験して頂くことにより、社会参加や生活意欲の向上、身心機能の向上へ繋げることは原発事故によりできませんでした。
- ④ 行事食・・・季節感を盛り込み楽しく味わって頂くことについては、原発事故に伴い様々な問題等があり実施することはできませんでした。
- ⑤ 喫茶・・・毎月第2週目の1週間実施する予定だったが実施することはできませんでした。

以下の年間行事は実施できず。

月	内 容	月	内 容
4月	地域散策	10月	芋煮会、紅葉見学(送迎時に見学)
5月	花見(送迎時に名所めぐり)	11月	地域散策
6月	地域散策	12月	クリスマス会、忘年会
7月	買い物ツアー	1月	書初め
8月		2月	節分
9月		3月	ひな祭り

(6) 職員の配置

この事業を行うため次の職員を置くものとする。

施設長、生活相談員、看護師・機能訓練指導員、介護員

(7) 利用定員

1日20人以内

3. 利用状況

	4月	5月
稼働日数	7日	9日
延べ利用人員	71人	64人
1日平均利用者数	10.1人	7.1人

平成23年度 いいたてデイサービスセンター 地域密着型事業報告書
《認知症対応型デイサービス事業》

1. 基本方針

原発事故に伴い、一般型同様に事業運営は5月末までの約2ヶ月間と云う短い期間だったため、長期に掲げた目標等については殆どがクリアすることはできませんでした。

しかし、サービス提供が従来と変わりなく受けられるよう、ご利用者の身体的・精神面を支援しながら、自分らしく生活（過ごせる）できる場を提供してきました。

2. 具体的な施策

(1) 重点強化項目

- ① 原発事故に係る諸事情等により、ケアプランに沿った援助計画を作成するのは困難であったものの、積極的に従来通りの高いサービスを提供してきました。
- ② 生活動作の維持と向上・認知症の進行の予防については、話しかけに重点を置き、従来通りのサービス提供ができていたと思います。
- ③ ご利用者の生活リズムに合わせ、話を傾聴し、意思を尊重することで、落ち着いた雰囲気づくりができたと思います。
- ④ 園芸療法（土に触れ野菜づくりを通し、ご利用者の意欲を高め認知症の進行予防に努める。）については、原発事故の問題によりできませんでした。

(2) 利用対象者

要介護状態にある認知症高齢者

(3) 事業内容

- ① 送迎時：家族とのコミュニケーションを大切にし、また、安心して利用して頂けるように、介護職員が添乗してきました。
- ② 食事：満足頂けるまでの提供には至らなかったものの、出来る限りのことは努力してきました。（栄養士と連絡を密にして食事の提供）
- ③ 入浴：体調の変化に留意し、安全且つ安心し、清潔を保ち・声掛け・見守り・介助を行い、ゆったりと入浴をして頂けたと思います。
- ④ 排泄：一人ひとりに合った声掛けや誘導をすることで、すっきりと爽やかに過ごせるよう努めてきました。
- ⑤ 余暇活動（脳内トレーニング）：体操、ゲーム、音楽（童謡・懐メロ合唱）、パズル、ぬり絵、昔遊び（お手玉・おはじき）等は個々に応じたプログラムで対応してきたものの、園芸（野菜づくり）やちぎり絵の作成等は、短期間ではできませんでした。
- ⑥ 健康チェック：心身状態の観察を行うとともに、持参した薬の管理、服用の援助を行ってきました。
- ⑦ 生活相談：日常の生活の悩みごと等の相談を行ってきました。

(4) 運営日

毎週月曜日から金曜日とする。

(5) 年間行事

- ① 誕生会・・・毎月実施（簡素ではあったが行ってきました）
- ② レク大会・・・実施することができませんでした。
- ③ 空いた時間の利用・・・レクリエーション・脳トレ等はできたものの、紙工作や壁飾り等の作成、調理（自前で栽培した野菜・菓子類）等は、短期間で実施することはできませんでした。
- ④ 地域ふれあい交流
 - ア. 外出する機会が少ないご利用者に、帰りの送迎を利用し、住み慣れた地域の名所を散策（ルートの配慮、季節を感じる、地域交流）することについては、放射線量の問題から実施できませんでした。
 - イ. 村内保育園児との交流により、生活の活性化を図ることについても計画的避難区域では実施することはできませんでした。

以下の年間行事は実施できず。

月	内 容	月	内 容
4月	地域散策	10月	芋煮会・紅葉見学
5月	花植え、レク大会	11月	地域散策、レク大会
6月	地域散策、春野菜づくり（トマト・葉物）	12月	クリスマス会、忘年会
7月	梅採り、梅漬け（収穫に応じて実施）	1月	書初め
8月	レク大会	2月	節分
9月	秋野菜づくり（二十日大根等）	3月	ひな祭り

（6）職員の配置

施設長、生活相談員、看護師・機能訓練指導員、介護員

（7）利用定員

指定介護予防認知症対応型通所介護事業と併せ、1日12人の範囲内

3. 利用状況

	4月	5月
稼働日数	19日	22日
延べ利用人員	130人	114人
1日平均利用者数	6.8人	5.2人

平成23年度 いいたてデイサービスセンター 地域密着型介護予防事業報告書
《介護予防認知症対応型デイサービス事業》

基本方針について

原発事故後においても、従来と変わらないサービス提供に出来るべく、ご利用者が可能な限り、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るよう、必要な日常生活上（入浴・排泄・食事等）の援助に努めることを掲げてきましたが、ご利用者がいませんでした。

職員の配置

施設長、生活相談員、看護師・機能訓練指導員、介護員

利用定員

指定認知症対応型通所介護事業と併せ、1日12人の範囲内